巻　頭　言

このたび、東アジア文化研究科の開設を記念して『東アジア文化交渉研究』特別号を刊行する運びとなった。東アジア文化研究科は、専門職大学院を除けば、本学で11番目に設立された新しい大学院であり、ここにその紀要を創刊することになったことは望外の喜びである。

本学が東アジア文化研究の分野において多数のすぐれた研究者を擁し、これまで国際的な教育・研究活動を培ってきたことはよく知られるところであろう。その実績により、2007年度、文部科学省「グローバルCOEプログラム」として「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成――周縁アプローチによる新たな東アジア文化像の創出」が採択され、2008年度、これを承けて本学文学研究科内に「文化交渉学専攻」を設置した。そして今年度（2011）、その「文化交渉学専攻」を文学研究科から独立させ、大学院「東アジア文化研究科」を開設することになったのである。

そもそも「文化交渉学」とは我々が他に先駆けて提示した学問手法である。「文化」は他地域や他分野とのたえざる「交渉」によって成り立っていると考えるからである。これは「文化」という人間の営為を動態的にとらえようとする斬新な方法といえよう。中国、韓国、ベトナム、琉球、日本などの文化がさまざまな地域、さまざまな分野間の相互交流によって形づくられ、また現に形づくられつつあることは疑いようのない事実だからである。言い換えれば、「文化」が「交渉」することは文化の本質なのである。本研究科ではそのような視点によって教育・研究を進めていることになる。

本研究科では従来のディシプリンを超え、「東アジアの言語と表象」、「東アジアの思想と構造」、「東アジアの歴史と動態」の三領域をカリキュラムの柱とし、有機的な連携をはかっている。この記念号においても、これらの領域に沿って論文が多数寄せられた。寄稿者には本研究科担当の教員と新進の大学院生、さらに国内外の研究者が含まれている。いずれも文化交渉の視点に裏づけられたすぐれた論考であり、きわめて読みごたえのあるものになっていると思われる。

紀要の創刊にあたり、文化交渉学が大きな実を結ぶことを願うとともに、今後もいっそうのご支援をお願いする次第である。

関西大学大学院　東アジア文化研究科長

吾　妻　重　二